

# 「学級目標の達成を目指し、活動を工夫する子どもたち」

高岡ブロック

## I 研究主題

望ましい集団活動を通して、自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす子どもの育成をめざして  
 一個と集団が共に高まる支援の在り方—

## II 研究の視点

- 1 子どもたちが合意を目指し、自己の生き方について考えを深める手立ての在り方
- 2 子どもたちが話し合いの成果を受けて、主体的に取り組むための支援の在り方

## III 実践事例 第5学年学級活動 指導者 澤村 力也

- 1 題材名「自覚プロジェクト パート1」  
 議題名「自覚プロジェクトの評価の方法を決めよう」  
 (A案：自覚カード、B案：自覚グラフ)



### 2 題材について

#### (1) 児童の実態

- ・ 素直で明るく、自分が活躍するチャンスを生かそうと積極的に取り組む子どもたちが多い。その一方で、友達との遊びに夢中になり、やるべきことを考えずに身勝手な行動をする子どもが複数おり、整列など集団での規律が十分に確立されていない。  
 →高学年としての自覚不足
- ・ 昨年は学級対抗集会を年に6回行い、混沌とした状態を自分たちの力で乗り越えてきた。  
 →クラス替えがあったが学級の枠を超えて信頼関係あり

#### (2) 学級目標

- ・ 3月にどんな学級になっていたいか→個人の願い→短冊
- ・ 教師が司会でまとめる。

テーマ「大きな壁をのりこえよう」

#### 高学年の「自覚」

- 自分からあいさつする。けじめをつける。
- 尊敬される人になる。など

#### みんなで「協力」

- 一人では無理なことでも力を合わせ、最後までやり遂げる。など

#### キラキラ「笑顔」

- 仲良しクラス。楽しく助け合い、達成感を感じたい。など

※月1回アンケートを取って集計し、グラフを掲示。

### 学級目標振り返りカード 502

名前( ) 自分=黒、クラス=赤							
1. 高学年の自覚 (あいさつ、けじめ、尊敬される)		0	1	2	3	4	5
気に入っていること・がんばりたいこと 校長先生やPTAのボランティアにあいさつしている。 運営委員会の友達にあまりあいさつできていない。		できていない					できている
がんばっていた人 (5-2) 運営委員会	がんばっていたこと みんなをあいさつしていたから。						
2. みんなで協力 (力を合わせて、やり遂げる)		0	1	2	3	4	5
気に入っていること・がんばりたいこと 宿題でみんなと協力して、みんなの野外活動の準備を協力してやっていた。		できていない					できている
がんばっていた人 さん	がんばっていたこと 魚さかばくときや、大変な事をやりとげていた。						
3. キラキラ笑顔 (がよし、楽しい、助け合い)		0	1	2	3	4	5
気に入っていること・がんばりたいこと クラスを作るときは、自分から火をあたえて、片づけた。		できていない					できている
がんばっていた人 さん	がんばっていたこと 用具の片づけを熱心にやっていた。						

### (3) 係活動

- ・「学級生活をよりよくするための係」  
→学級目標に近づくための仕組みづくり（学級目標から下りた係の目標）
- ・人数無制限、相互評価、自己評価→活動意欲を高め、活性化
- ・主に休み時間に活動（新聞係、スポーツ係、イベント係、音楽係、ネイチャー係など）



### (4) 議題選定までの流れ

- ・出席番号で5人ずつのグループを作り、輪番で司会者グループ。
- ・議題の選定←アンケート結果や議題ボックスに入ったものから司会者グループが選定。  
→5、6月の学級目標達成度の結果から、「自覚プロジェクト」立案。
- ・アンケートでアイデアを募集→ほとんどが精神論。  
→K児だけがイベント企画（がんばった人にシールをあげる）  
→司会者グループが「自覚プロジェクト」をイベントとして再度アンケート

**A案（A児）「自覚カード」**…あいさつ、優しく、そうじ、忘れ物、発表の5項目を自己評価。

一週間で50点満点にして40点以上にシール。（支持者21名）

**B案（B児）「自覚グラフ」**…あいさつとボランティアの2項目を自己評価。それを毎日グラフに記録。シールの数で上位を表彰。（支持者14名）

教師の目から見ると、運動会で下級生の先頭に立って応援したり、宿泊学習ではグループで力を合わせて活動したり、子どもたちは確実に成長していると感じる。しかし、「自覚」が上がらないのはなぜか。達成度グラフのような目で見える形にすることで、自分や友達のがんばりに気付かせたい。

### 3 題材の目標

- (1) 学級目標「自覚」のレベルアップに向けた意見を考え、積極的に発表することができる。
- (2) 互いの思いや願いを認め合い、よりよい学級や学校をつかっていくため、話し合いの活動で決まったことを進んで実践できる。

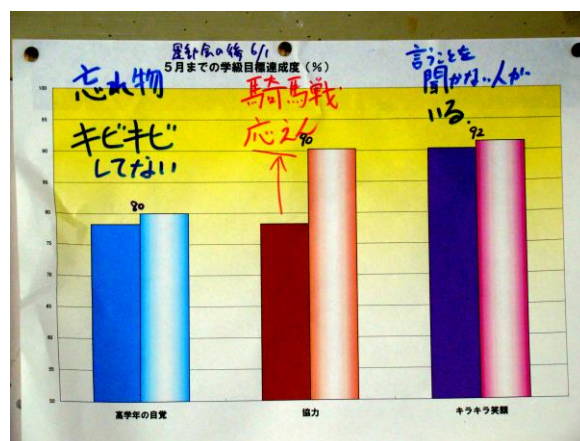


#### 4 明らかになったこと

(1) 子どもたちが合意を目指し、自己の生き方について考えを深める手立ての在り方

##### ① 自己の生き方について考えを深める題材づくり

学級目標を達成するための活動として学級活動を展開していくことで、子どもたちを常に共通の認識に立たせることができる。毎月1回行う学級目標振り返りカードでは、「自覚」「協力」「笑顔」のそれぞれの項目について0～5の6段階で自己評価を行い、全員が5を付けた時を100%としてグラフにして提示した。子どもたちは「自分自身」と「クラス」について同じ尺度上に評価を行う。「クラス」についての評価を集計し、グラフ化するので、学級目標達成度グラフは、子どもたちの「学級の雰囲気」に対する共通の評価であると言える。



本時の議題も学級目標の中から達成度の低いものを選び、達成を目指す手立てをみんなで考えようと呼びかけている。独りよがりな理論を押し通すだけでは学級目標の達成には近づくことはできず、話し合いの中で折り合いをつけていくことが必要となる。自分たちの理想とする姿を掲げ、それに向かって力を合わせていく活動を繰り返すことで、自己の生き方について考えを深め、合意を得る手立てを考えていくことにつながる。

#### <授業記録：本時冒頭「提案理由」>

副司 今日議題は「自覚プロジェクトについて」です。それでは、提案者のKさんから提案理由を説明してもらいます。Kさんよろしくお願いします。

K児 今日はBさんかAさんの案か。白熱した戦いをしてください。

C n えー？

T 別に白熱せんでもいいやろ！よしわかった！聞こう！Kさん、なんで白熱せんなんが？

K いやいや。決まればいい。納得いくような感じのものに。

T よし。じゃ言い合えばいいってこと？

C n じゃ、言い合おう！よーし。

C18 Aさんのはわかりやすく、何項目もあるからいいと思います。

C4 私はAさんのに反対で、優しくとか、掃除やったら、何ならいいのかがよくわからないので…。

C18 どうすれば、○になるのかわからんがいろ。

O児 ああ、そういうことね。

T どの項目で？

C4 Aさんのあいさつや掃除、優しく。発表とかだったら、2回で○になるとかわかるんだけど。

T ほんなら、Aくん聞いてみる？

C18 A君。

K A君、どん！

A あいさつは大きな声は○で、ちょっとできなかったときは×にして、普通やったら△にして掃除の場合、ちゃんとできたら○、全然できんだら×、普通やったら△。

T うん。掃除っていうのは普段の掃除のことなん？

C n 優しくは？

C18 優しくって1年生に優しくやる？

A 優しくは、下の学年の人に優しくする。

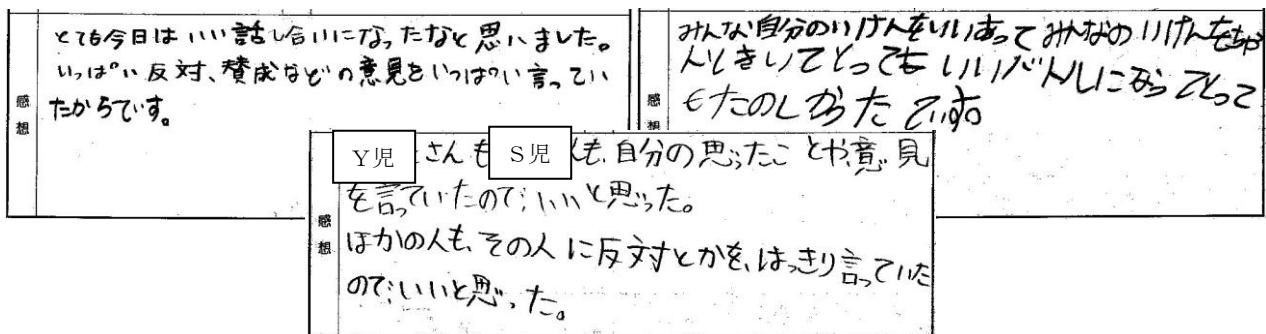
C n そしたら？

A できたら○、ちょっとしか優しくできんだら△、全然できんだら×。

T 今でわかる？具体的にどういふとき○になるかわかりますか？

C n わかる。大体分かる。

記録からもわかるように、子どもたちは意見の対立が人間関係の対立にはならず、思いをぶつけあうことが学級をよりよくするための方法であると考えている。そのことは C18 が自分が支持したばかりのA案を批判するC4の発言にも同調して相づちを打っていることから読み取れる。さらに、学級会カードに書いた振り返りの欄からも伺うことができる。



## ② 子どもたちがかわり合い合意に向かうための支援

子どもたちの評価基準に対する質問が続く、C28 はいつも鋭い視点で話すのだが自信がなくて、最後まできちんと伝えることができない傾向がある。「勝手に決める」を捉え、掘り下げることでB案のもつ「互いにチェックしあえる」「目標をもてる」という価値に迫らせたいと考えた。

子どもたちはA案のもつ評価基準のあいまいさという問題点に気づき始めている。C34 は2年生と取り組んできた校内相撲大会に向けての練習のことをあげ、具体的に話をしようとしていたが、そのことを聞き逃してしまっている。C34 の考えを取り上げていけば、体験とかかわらせながら評価の基準について深めることができたかもしれない。

<授業記録：評価基準について>

C34 なんか、相撲の時とか。

O 相撲の練習って、今日やったっけ？

司 静かにしてください。

副 (「静かに」の札を上げる)

C21 さっきのAさんの説明に質問で、一日に絶対一回は優しくしないといけないんですか。

C32 それは自己判断で、

O 自己判断？

C28 Aさんに反対で、自己判断やったら勝手に決めるから。

司 あんた、どっちに賛成なん？Aさん？それやったらA案に反対してどうするんけ。

C n (笑)

T 待って待って、自分で決めたらだめなん？

C28 自分で決めたら、勝手に決めるかもしれんもん。

T 具体的にはどういうこと？

C28 ×やったけど、△にしてしまおう。みたいな。

T あー。インチキして○つけるかもってこと？

C10 おれもA案やけど、そう思うんやぜ。

C33 Aさんのやったら自己判断やけど、Bさんのも自己判断だと思います。

C24 んじゃ、両方反対やぜ。

M Aさんの案に賛成で、カードに付けた後、グラフにすることもできるし、そのあと、どうすればいいかもわかるからいいと思います。

O うんうん。なるほど。

T なに？なんかBさんっぽくなってきたぜ。

M 自分で評価して、そのあと、どうすればいいか考えることもできるし。

T みんなの合計じゃなくて、自分の？

M みんなの合計も出す。

C n 合体じゃない？

T おーっと、出てきてしまいました。新しいの。3つ目。Aさんのを付けたあと、Bさんのに付ける。

C28 の意見に賛同する声が高まり、子どもたちの意識が揺れてきた。A案のあいまいさが明らかになったことで、両方にいいところがあると考えていたM児が折衷案を持ち出してきた。そこで、論点を整理し、さらにB児の考えを聞くことにした。

<授業記録：折衷案のすり合わせ>

T じゃあ、一旦ちょっと整理しようか？A案はどういうのだっけ？いろんな項目があるからいいという意見がある。一日一回優しくしないとイケないのか。自己判断だと嘘をつく人がいる。という意見もある。でも、それは両方ともそうじゃないのという意見が出た。Bさんの方は…。

B でもさ、こっちはさ。「これやったんけ」とかさ…。

T お！Bさんから何か意見が。

C n なになに？

T 副司会自ら登場！

B えっと、こっちやったら、人が見てるかもしれんから、全員に見てもらって、「これやったんけ」とかいうこともできる。

T Bさんのは毎日つけるんやね。毎日貼っていくんやね。だから、「え？これ本当にやったんけ？」っていうことができる。

B 言える。

T Bさんのはお互いに本当にやっているかチェックし合えるってことね。で、合体案は一週間分カードについたらグラフにするの？毎週毎週やっていくってこと？わからん。Mさん。

M ひと月ひと月やっていけばいいと思う。

C12 そしたらカードが大きくなるぜ。

M 月一回やってグラフに書けばいい。

- T 長い取り組みになるんやね。Kさん、あなたが提案したのは、これから一年間、自覚をがんばっていきましょうってことなんですか？
- K はいはい。
- O なら、よしっ！
- T なら、KさんとMさんの意識はピッタリ一致してるんやね。

B案がA案の評価のあいまいさを補う力があることがわかり、B児、M児、K児は折衷案をとることで合意することができた。その後は、実施を想定しての懸念やより明確な評価の基準作りに話し合いの中心が移行していった。

<授業記録：評価基準について>

- T どうなん。みんなグラフに自分の結果が出るのはいいの？
- C n いいよ。
- C28 いやだ！
- T C28さん。いいと思うよ。言えばいいよ。自分ができたかどうか見られるのは嫌か？
- C28 見られたら嫌だ。
- T なんで？
- C10 おれも嫌だ。おれも嫌。あいさつ。声小さい人とかおって、「お前あいさつしとらんやろ」とか言って責められる。
- C34 なんかいじめっぽくなる。
- T やってないとか言われるってこと？
- C10 声小さい人とか。
- (中略)
- C n あざっす。ちゃーす。
- B なんかぼそっといっとる。
- T ボソっていったらだめ？手拳がった。
- C33 聞こえるか聞こえないかで判断したら、周りが静かだったら聞こえるあいさつでも、周りがあるさかったら聞こえなかったりするし、聞こえるか聞こえないかで判断するのは…。
- C18 もし、安全パトロールの人にあいさつして、「おはよう」って言って「おはよう」って返ってきたら、聞こえていたってことだから…。
- T はあーん。安全パトロールの人で判断する。返事返ってきたらってこと。ということは待てよ。自分からあいさつしたら帰ってくるけど自分からせんだら、終わりやぜ。
- C7 そうやって広がっていくが、次の人にとって。
- B (あいさつは)自分からって書いてあるやん。
- C n おー、なるほど。
- K あのさっき、C18さんが「おはよう」って返ってきたらいいと言ったけど、自分でいいと思ったらそれでいいと思う。もし、ちっちゃい声であいさつして返ってきたら、でも、だめだなあと思ったら、だめだなあって思ってもインチキで○にしちゃえて思っても、それは自分の心の中に残っているからいいと思います。

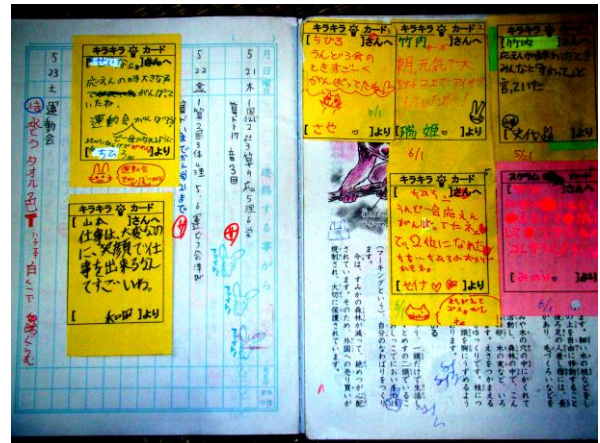
評価基準については、最終的に声の大きさに基準を決めることの難しさから、全会一致で自己判断に任せることとなった。C10の懸念したB案の問題点について十分な話し合いができなかったため、多数決では21名C案、残り14名がA案を選ぶ結果となった。

(2) 子どもたちが話し合いの成果を受けて、主体的に取り組むための支援の在り方

① 相互評価の工夫

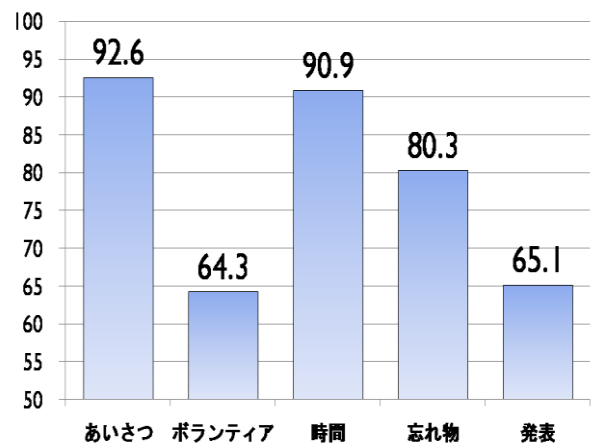
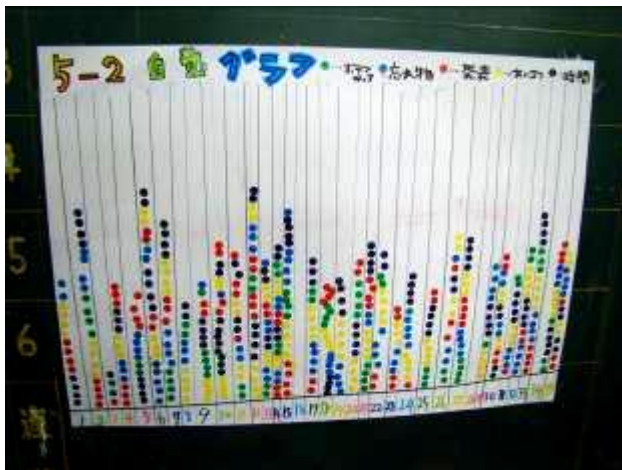
学級会カードの上半分は自分の考えをもって話し合いに臨むために使い、下半分はがんばっていた友達とその理由、本時の話し合いの感想を書く。がんばっていた友達にはキラキラカードを手渡すようにしている。もらったカードは連絡帳に貼って帰り、保護者からもがんばりを認めてもらうようにしている。

このカードはいつも教室隅の箱の中に作り置きしてあり、自由に交換できるようにし、実践意欲を高められるようにしている。



② プロジェクトの目当てと振り返りの工夫

話し合いの結果、自覚カードと自覚グラフの両方を同時に実施することになり、翌日の金曜日、A児、B児両方がそれぞれの部分を分担して準備を行った。子どもたちはA児の選んだ「あいさつ」「ボランティア」「時間」「忘れ物」「発表」のそれぞれの項目について、自分の目当てをもって1週間自己評価を行い、B児の作ったグラフにシールを貼っていった。



- ・だれにでもあいさつができるようになってよかった。
- ・最初は△もあったけど、どんどん減って行ってよかった。本当に自覚アップするんだな。すごい！
- ・苦手だけど、発表するとシールが貼れてうれしかった。これからも続けたい。
- ・カード+グラフはとても効果がありそう。意外に面白くてまたやりたい。
- ・いつもより気持ちいい気分になった。
- ・1週間守り続けるのはとても大変でした。

「ボランティア」は目当てを「人助け」にした子どもたちが多く、「発表」はちょうどテストの時期と重なったことでチャンスに恵まれなかったのか、今一つの結果になったが振り返りの話し合いでは両方を行ったことでやる気が出たという意見が多く出された。



### ③ 自己評価の工夫

グラフの発案者であるB児は、以下のような目当てをつくり、自己評価した。

項目	目当て	評価(10点満点)
あいさつ	自分から進んで元気よく!!	10点
ボランティア	友達、下級生が困っていたら助けてあげる	6点
時間	時間に遅れないよう、5分前行動!!	8点
忘れ物	前の日に、ランドセルをチェックする!!	10点
発表	はっきり言葉を言う!!	8点

そして、一週間取り組んでみた感想には、「みんな、いつもシールを忘れずに貼ってくれるし、友達のがんばりがわかるようになった。自分は『負けたくない!!』と思っているし、みんなもがんばっていることがわかった。これからも続けていくと、もっとがんばれると思った」と書いた。シールが貼られていくということは、自分の主張が受け入れられ、認められていることを実感することにつながる。張り切ってプロジェクトに取り組んでいる様子がわかる。

しかし、終業式を目前にした7月15日、児童会で取り組んでいる「あいさつバトン」が事態を急変させる。「あいさつバトン」は、赤、白、青、黄の4つの色団ごとに、①全員が1年生から6年生まで全学年の子どもたち15人以上に、②自分から進んで、③元気にあいさつできたら、次のクラスに回すことができる。というもので、一人でも達成できないことは色団全員に迷惑をかけることになる大変厳しいイベントである。

その朝、バトンが回ってきたことで、運営委員会のチェックが入った。B児の所属する赤団の子どもたち全員が起立し、達成できたと考える児童は挙手を求められた。もちろん、B児も手を挙げたが、校門の前であいさつ運動をしていた運営委員数名から、「声が小さかった」と指摘を受けてしまった。B児はそのときの感想を次のように書いている。

7/15 今日、わたしがあいさつをしたけど、声が小さかったのが、運営委員の声が大きすぎたのかわからないけど、「あいさつバトン」がだめでした。運営委員の人に「B児」が「あいさつをしていせんでした」と言われてショックでした。

次の日、担任はB児の声の大きさを確かめるため、運営委員とともに校門に立つことにした。そのときのことをB児は次のように書いた。

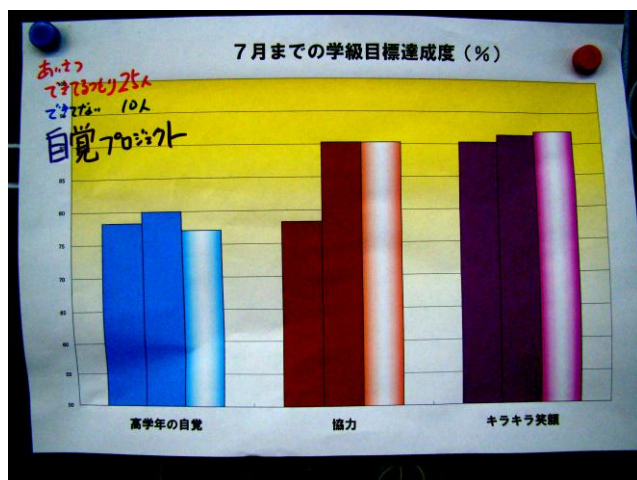
7/16 1,2,3年生の玄関の方に運営委員の人たちと先生が立っていました。先生は私のあいさつが大きくなるまで私に「あいさつ」をしていました。先生の前を通り過ぎて、2階の4,5,6年生の玄関から下を見ると、低学年の子どもたちが「あいさつ」をしていました。そのとき、「1日の始まりに心を繋ぎ合っている」と思いました。これからは心の底から、「おはようございます」と言いたいです。そして、あいさつのある学校にしていきたいです。

赤団はその日、「全員がきちんとあいさつができた」と認められ、無事にあいさつバトンを回すことができた。



#### ④ 学級目標達成度グラフの工夫

あいさつバトンが無事に次のクラスに渡った日。クラスで1学期最後の学級目標振り返りカードを記入した。集計すると、「協力」と「笑顔」はわずかに上がっていたが、「自覚」だけが4月よりも低下したという結果になった。



終業式の日、朝の会で集計結果を発表すると「おかしい」という声と、「当然だ」という声の両方が入り乱れた。

「当然」とする子どもたちは、「あいさつをしていない人がいる」「まだまだ小さい」と主張し、「おかしい」という子どもたちは「ほとんどの人がきちんとできている」「前よりも大きくなってきている」「みんな積極的に自覚プロジェクトに参加した」と主張した。

やはり、あいさつバトン事件が大きく影響し

ているようである。

学級目標達成度は、子どもたちが学級の雰囲気はどうとらえているかということを表している。その結果は実態を的確に反映しているとは限らない。子どもたちが「自分たち自身をどう感じているか」、言い換えれば「どこに問題を感じ、より高めていきたいと願っているか」を表しているということができる。子どもたちが自分たちの集団を信じ、前向きに解決に向かって働きかけようとする限り、その評価が上がることも下がることも成長の糧となってくれる。

#### 5 個と集団が共に高まる支援の在り方

最後に自覚プロジェクトを終えた子どもたちが書いた感想を紹介する。

最初はグラフがシールでいっぱいになるなんて思っていなかったので、グラフ2枚目に突入した時はびっくりしました。きっとみんなこのグラフとカードのおかげで自覚が上がったと思います。それに5つも項目があるのですべての項目に○がついた時はとてもうれしかったです。

私はあまり発表ができないので、2学期は「一日一回は発表する」を心がけたいです。カードに×をつけるとき、「今日はできなかったから、明日はがんばろう!」と思えるので、明日の目標になります。

これからも、このカードとグラフを使って自覚を高めていきたいと思います。そして、3月には、4月の5年2組とは違うクラスになっていきたいです。

2学期は、1学期以上に高学年らしくなっていたらいいなあ。

自覚プロジェクトが始まると、「みんなカードに○がつくように、いっぱいシールが貼れるようにがんばっていたな」と思いました。

でも、運営委員の人が、校門に立ってあいさつしているときに、自分はいいさつをしていると思っていても、まわりの人から見ると小さい声に聞こえるという問題があったので、2学期からは、まわりの人からもきちんとあいさつできていると言われるように大きな声であいさつをして学級目標を達成できるようになりたいなと思いました。

やり終わって思ったことは、みんながんばってやっているけど、まわりから見ればそう見えない。逆にがんばっているのに注意されるのは気分もよくない。声の大きい人から見れば、小さい人はあいさつしていないように見えるかもしれないが、小さい人は一生懸命にやっているのかもしれない。声の大きい人は、そんな小さい人のことも考えてあげるといいなと思った。

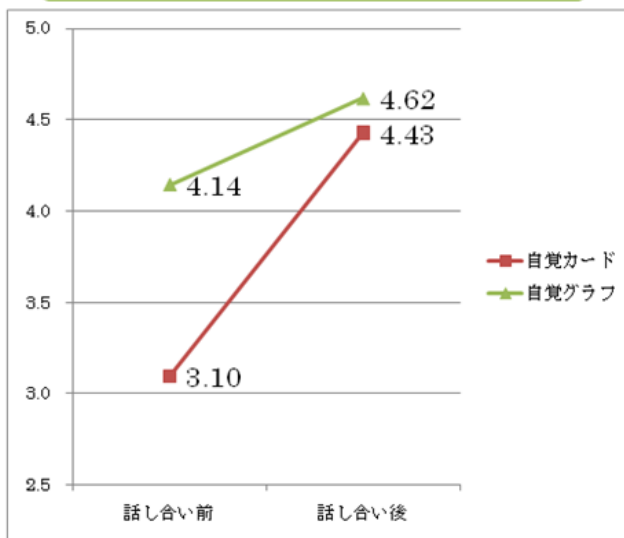
大きい声が出せるからと言って手を抜いている人より、小さい声でも一生懸命に言う方がよほどえらい人だと私は思う。そんな人がふえてほしいです。

積極的に取り組み自分たちの活動に自信をもっている子、高学年として誰から見ても恥ずかしくないクラスになりたいと願っている子、気持ちはあってもなかなかできない友達に寄り添って考えを深める子。子どもたちはそれぞれの視点からよりよい学級、学年、学校づくりについて考えている。

様々な考えの中から、よりよい一つの活動を選びぬく話し合いの中で子どもたちは思いや願いをぶつけ合い、本当に大事にしたい価値が明らかになってきた。そのための取り組みを進める中で、子どもたちは自分を振り返り、友達のがんばりに気づき、次の活動に向けて自分をどう生かすべきか考え始めている。

これからも、学級目標の達成を目指し、活動を工夫していく子どもたちを精一杯支援していきたい。

最初B案を支持した子ども (n=14)



最初A案を支持した子ども (n=21)

